

軟体動物 (頭足類
三拍貝類
巻貝類)

甲殻 (尾尾
スズメ
尾)

環形

3 底生物の種類

調査は主として干潮時に実施した。底質や生物相から、この海域は便宜上、次の4通りに区分される(図-4)。これらの区分に応じて、主なる種類をあげると表-4のとおりとなる。

表-4 屋嘉地潟原における底生動物の種類 (昭和47年7月-48年2月)

種	類	(夏)				(冬)			
		砂質帯	スガモ帯	砂礫帯	サンゴ礁	砂質帯	スガモ帯	砂礫帯	サンゴ礁
Batillaria multiformis	ウミニナ	○							
Gafrarium pectinatum	ホソスジイナミガイ	○							(冬)の欄は
Notocochlis luridus	ホウシユウノタマ	○	○						夏とは生息場
Natica vitellus	トラダマガイ	○	○						所が異なるも
Theliostyla albicilla	アマオブネガイ	○	○	○					のだけを記入
Massarius costatus	ヒメオリイレムシロ	○		○					した。
Onchidium verruculatum	イソアワモチ	○		○					
Pilumnus vespertilio	ケブカオウギガニ	○	○	○					
Penaeus japonicus	クルマエビ	○							
P. latisulcatus	フトミゾエビ	○							
Nereis japonica	ゴカイ	○							
Codakia peytenorum	ウラキツキガイ		○						
Tellinella sturella	ヒメニツコウガイ		○						
Scutarcopagia scobinata	サメザラガイ		○						
Tellinella virgata	ニツコウガイ		○						
Pinctada fucata	ベニコチョウガイ		○	○					
Acropagia diaphana	イチョウシラトリガイ		○	○					
Astrarium haematvagum	ウラウズガイ		○						
Callopomella excellens	ニシキサザエ		○						
Lunella coronata	スガイ		○						
Dolabella auricularia	タツナミガイ							○	
Afroccucumis africana	ムラサキグミモドキ		○	○					
Holothuria pervicax	トラフナマコ		○	○					
H. scabra	ハネジナマコ		○						
Halichondria panicea	ナミイソカイメン		○	○					
Bdoceroides sp.	オヨギイソギンチャク		○						
Ophioplocus japonicus	クモヒトデ		○	○					
Portunus pelagicus	タイワンガサミ		○	○					
Calappa calappa	マルソデカラッパ		○	○					
Protoreaster nodosus	コブヒトデ		○						
Holothuria atra	クロナマコ		○	○	○				
Synapta maculata	オオイカリナマコ		○	○	○			○	○
Pinctada margaritifera	クロチョウガイ			○					
Pinna atropurpurea	スエヒロガイ			○					
Fragum unedo	カワラガイ			○					
Tridacna crocea	ヒメジャコ			○					
Guttarium muricium	シオボラ			○					
Conomurex luhuanus	マガキガイ			○					
Peristernia nassatula	ムラサキツノマタモドキ			○					

種	類	(夏)				(冬)			
		砂質帯	スガモ帯	砂礫帯	サンゴ帯	砂質帯	スガモ帯	砂礫帯	サンゴ帯
Toxopneustes pileolus	ラッパウニ			○	○				
Tripneustes gratilla	シラヒゲウニ			○	○	○	○	○	
Echinometra mthaei	ナガウニ			○					
Diadema setosum	ガンガゼ			○					
Acanthaster planci	オニヒトデ			○					
Culcita novaeguineae	マンジュウヒトデ(ウミバコ)			○					
Grapsus strigosus	ミナミイワガニ			○					
Holothuria edulis	アカミシキリ			○	○				
H. argus	ジャノメナマコ				○				
Acropora squarrosa	エダミドリイシ				○				
A. leptocyathus	テーブルサンゴ				○				
Porites tenuis	ハマサンゴ				○				
Favia speciosa	ククメイシ				○				
Stylophora pistillata	ショウガサンゴ				○				
Fungia scutaria	クサビライシ				○				
Octopus aegina	スナダコ			○	○				

砂質帯：海岸線からアジモ帯に至る潮干帯の上部を占める一帯である。底質はところどころに粘板岩の露出部がみられるが、多くは泥まじりの砂底質である。

こゝにみられる代表的な種類は、ウミニナやゴカイ、潮溜りではツムギハゼである。総じて動物の生息量は少ない。

アジモ帯：二枚貝類ではウラキツキガイが比較的多い。この貝は本県沿岸海域のアジモ場では、普通に生息している種類であるが、このアジモ場での平均生息個体数は9個体/m²であり、それほど多

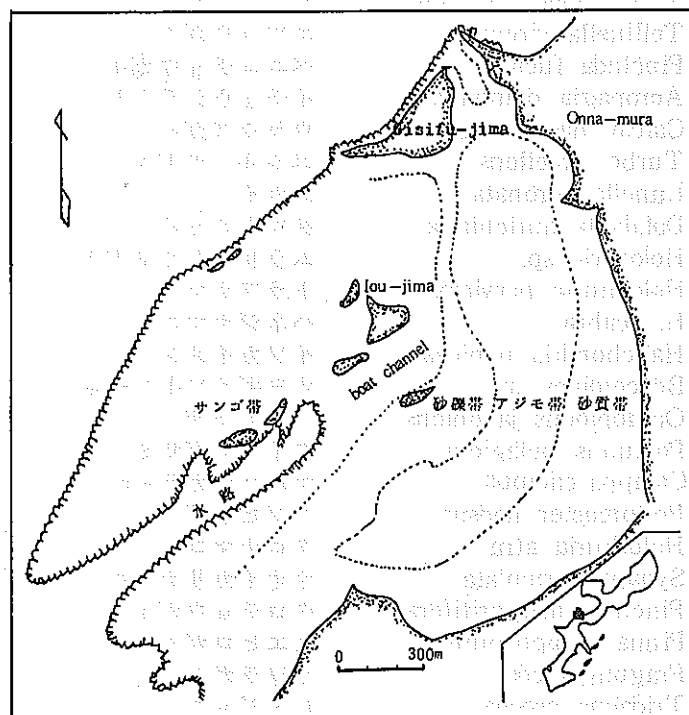


図-4 島原湾における生物相および底質による区分け